

F S H

血液検査用卵胞刺激ホルモンキット

F S HおよびL Hは下垂体前葉から分泌される糖蛋白ホルモンで、分子量はF S Hが約35,000、L Hが約29,000です。また、その構造は α と β の2つのサブユニットが非共有結合しており、特に α サブユニットはh C GやT S Hと共通であり、構造の異なる β サブユニットが生理活性の発現に重要とされています。

F S H、L Hの分泌は視床下部からのG n R Hによって刺激されます。また、女性ではエストロゲン（E 2、他）やプロゲステロン等の複雑なフィードバック機構による調節を受けています。卵巣における卵胞発育は主にF S Hの影響下にあります。また、排卵はL Hの多量分泌（L Hサージ）により引き起こされ、引き続きL H分泌が黄体を刺激してプロゲステロンの産生を促します。一方、男性では、主にL Hの刺激により精巣からテストステロンが分泌されます。

F S H、L Hの測定は視床下部-下垂体-性腺系の異常が疑われる場合に重要です。一般に、F S H、L Hの基礎値が高く、E 2（男性ではテストステロン）が低い場合には原発性性腺機能低下症が、またF S H、L Hの基礎値が低く、E 2（男性ではテストステロン）も低い場合には続発性性腺機能低下症が疑われます。また、F S Hが正常でL Hが高い場合には多嚢胞性卵巣症候群（P C O S）が考えられます。さらに、基礎値のみの判定では不確実な場合には、G n R H負荷試験などの分泌刺激試験が実施されます。

L H

血液検査用黄体形成ホルモンキット

仕様

FSH

試薬構成

免疫反応試薬	Eテスト「TOSOH」II (FSH)	(100テスト/箱)
標準品	Eテスト「TOSOH」II (FSH) 標準品セット	(2濃度、各2本/箱)
検体希釈液	Eテスト「TOSOH」II (FSH) 検体希釈液	(4mL x 4本/箱)
対象検体種	血清、ヘパリン血漿	
測定時間	免疫反応時間 10分 (1ステップサンドイッチ法)	結果報告 約20分
測定範囲	1. 0~200 mIU/mL	
健常人参考値	(社内データ)	

項目	性別	月経/妊娠 (周期)	参考基準範囲
FSH (mIU/mL)	成人男性	—	2.1~18.6
	成人女性	卵胞期	4.5~11.0
		排卵期	3.6~20.6
		黄体期	1.5~10.8
		閉経後	36.6~168.8

LH

試薬構成

免疫反応試薬	Eテスト「TOSOH」II (LH II)	(100テスト/箱)
標準品	Eテスト「TOSOH」II (LH II) 標準品セット	(6濃度、各2本/箱)
検体希釈液	Eテスト「TOSOH」II (LH II) 検体希釈液	(4mL x 4本/箱)
対象検体種	血清、ヘパリン血漿	
測定時間	免疫反応時間 10分 (1ステップサンドイッチ法)	結果報告 約20分
測定範囲	0.2~200 mIU/mL	
健常人参考値	(社内データ)	

項目	性別	月経/妊娠 (周期)	参考基準範囲
FSH (mIU/mL)	成人男性	—	1.7~11.2
	成人女性	卵胞期	1.7~13.3
		排卵期	4.1~68.7
		黄体期	0.5~19.8
		閉経後	14.4~62.2